イスタンブール　史跡探訪報告　2012

コンスタンティノープルからの使者

日程

＊日目	月　日	スケジュール
１日目	8月22日(水)	17:45 羽田空港発(ANA145)
		19:00 関西空港着
		22:30 関西空港発(トルコ航空47)
２日目	8月23日(木)	05:35　アタテュルク国際空港着
		黄金門、ガラタ塔、新市街、アジア側他
３日目	8月24日(金)	
		アヤソィア、地下宮殿
		競馬場跡、考古学博物館
		ブルーモスク、トプカプ宮殿他
４日目	8月25日(土)	
		コーラ博物館、旧パンマカリストス修道院跡
		旧パントクラトール修道院跡、ヴァレンス水道橋他
		22:00　アタテュルク国際空港着
５日目	8月26日(日)	00:50　アタテュルク国際空港発(トルコ航空46)
		17:55 関西空港着
		19:55 関西空港発(ANA148)
		21:15 羽田空港着

天候：全日快晴

Constantinople in the Byzantine period
Note: Not all buildings and other features were extant at the same time
Churches / Monasteries (mod. Turkish names in italics)
Underground / Open air cisterns
Roads & forums (course & dimensions often approximate)
modern shoreline
Approx. region boundaries and numbers (Notitia urbis Constantinopolitanae, ca. 425 AD)
City quarters/neighbourhoods
Venetian Quarter
Foreign quarters (11th-12th centuries)
Walls (attested / approximate course)
1400
Year of enclosure with walls (Genoese Galata)
70 m
60 m
50 m
40 m
30 m
20 m
10 m
0 m
0 100 500 1000 1500 2000
metres
Golden Horn
Bosporus
Marmara Sea (Propontis)
Lycus River
Mese
Constantinian Wall
Theodosian Wall
Walls of Byzantium
Chain
Hippodrome
GREAT PALACE
Hagia Sophia
Forum of Constantine
Forum of the Ox
Forum of Arcadius
Forum Tauri
Forum of Theodosius
Forum of Julian
Forum of Constantine
Cistern of Aspar
Cistern of Aetius
Cistern of Mocius
Cistern of Philoxenos
Column of Marcian
Column of the Goths
Column of Justinian
Column of Arcadius
Column of Theodosius
Column of Leo
Column of Zeuxippos
Column of Constantine
Column of Theodosius
Column of Arcadius
Column of Marcian

１．イェディクレ周辺（8月23日）

イェディクレ(YEDIKULE)

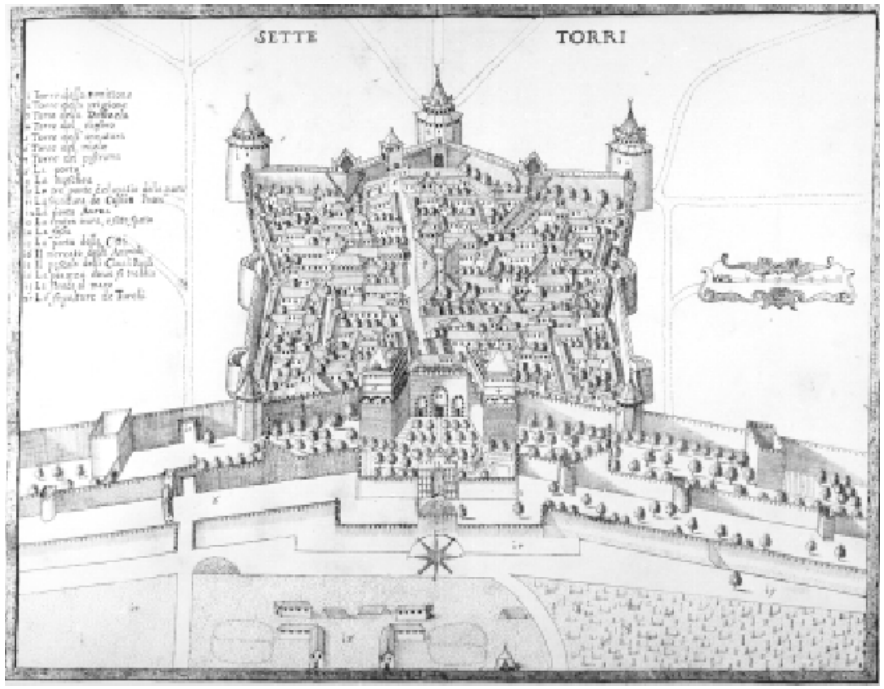
ビザンツ時代の黄金門。ローマとコンスタンティノープルを結ぶエグナティア街道にある重要な門で、皇帝の凱旋時はここから入城した。

早くから城塞化され、皇帝ヨハネス2世コムネノス（在位：1118年 - 1143年）の頃に現在のような七つの塔を持つ形態になり、ギリシャ語で「七つの塔の城」を意味するヘプタピルギオン（エプタピルギオン）と呼ばれるようになった。「イェディクレ」はギリシャ語名をトルコ語で意訳した呼び方。

オスマン帝国時代の1468年に改修、その後は国宝庫、牢獄、処刑場として使用された。

1622年、イェニチェリの反乱で退位させられたオスマン2世はここで処刑された。

現在は博物館となっている。



オスマン帝国時代のイェディクレ(Wikipediaより)

イェディクレ(YEDIKULE)

イェディクレ(YEDIKULE)

イェディクレ(YEDIKULE)

イェディクレ(YEDIKULE)

イェディクレ(YEDIKULE)

ウィキペデイアより　2009年9月撮影

Byzantium 1200の復元画像

イムラホル・ジャミィ
（旧ストゥディオスの洗礼者ヨハネ修道院）

463年にストゥディオスという貴族が創建。イコノクラスムの時代に聖像擁護派の拠点だったために弾圧され、一時衰微するが、イコノクラスム終了後には勢力を回復し、修道士達は正教会内でも大きな影響力を持った。

バシリカ式の聖堂は、コンスタンティノープル陥落後モスクに変えられた（「イムラホル」とは「従者」と言う意味。スルタン・バヤズィット2世の従者エリアス＝ベイが所有したため）。

1894年の地震で崩壊し、それ以降は廃墟となった。何年か前までは荒れ果てた廃墟で、人の出入りも可能だったようだが、（浅野和生先生のサイト：http://www.geocities.jp/kz11610/stoudios.html）現在はアヤソフィア博物館が管理していて入れない。

細密画に描かれたストゥディオス修道院

イムラホル・ジャミィ
（旧ストゥディオスの洗礼者ヨハネ修道院）

http://www.arkeo3d.com/byzantium1200/studion.html

Byzantium 1200の復元画像は上記のリンクを参照

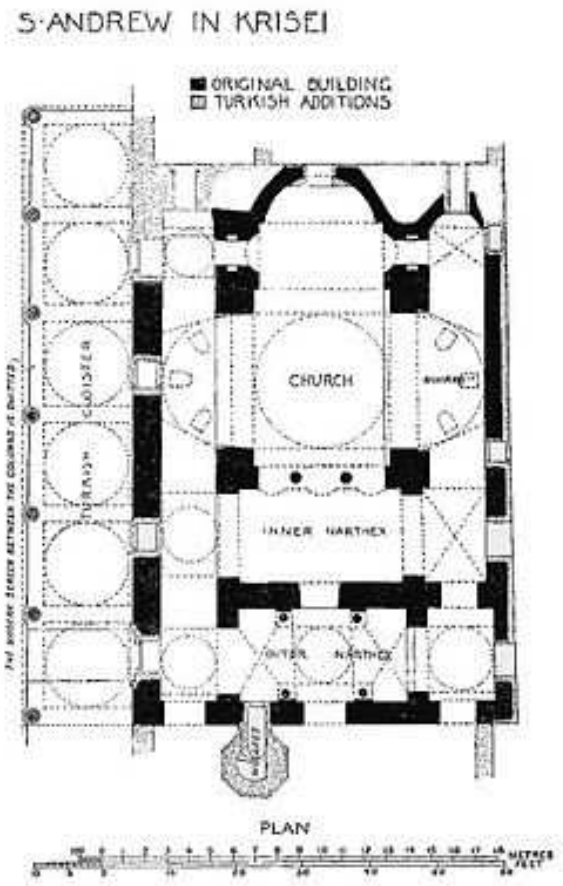
イムラホル・ジャミィ
（旧ストゥディオスの洗礼者ヨハネ修道院）

コジャ・ムスタファ・パシャ・ジャミィ
（旧クレタ島の聖アンドレアス修道院付属教会）

5世紀に女子修道院として創建。イコノクラスムの時代に消滅するが、9世紀にバシレイオス1世の手によって再建され、その時に8世紀にイコノクラスムで処刑されたクレタ島の聖アンドレアスを埋葬した。聖堂はラテン帝国の占領による荒廃から復興させた、ミカエル8世の姪テオドラによるもの。

オスマン帝国時代になって、セリム1世の大臣コジャ・ムスタファ・パシャによってモスクに改装された。

住宅や商店の立ち並ぶ中にあるので、全景を上手く写真に撮れる場所が無い。



1912年に描かれた平面図（Wikipediaより）

コジャ・ムスタファ・パシャ・ジャミィ
（旧クレタ島の聖アンドレアス修道院付属教会）

お取込み中で写真が撮れませんでしたので、以下（（と）さんのブログ）をご参照ください。

http://d.hatena.ne.jp/thutmes/20090313/p2

２．ガラタ塔（8月23日）

ガラタ塔

元々は6世紀のアナスタシウス1世によって灯台が建てられた場所だが、現在の塔は1394年にジェノヴァ人が建てた塔が元になっている。

塔そのものの高さは66.9mとさほど高くはないが、ガラタ地区の丘の上に建っているので対岸からも目立つ。

現在はエレベーターで上がれる展望台、夜はナイトクラブとなっている。

観光シーズンは狭い展望台に各国からの観光客が押し合いへし合いになるが、眺めは抜群。

ガラタ塔

対岸から見たガラタ塔　8月23日朝

ガラタ橋の袂から見たガラタ塔　8月23日昼

ガラタ塔

ガラタ塔から見た旧市街

ガラタ塔

ガラタ塔から見た旧市街（スルタンアフメット地区拡大）

ガラタ塔

ガラタ塔から見た旧市街（旧市街中ほど）

ガラタ塔

ガラタ塔から見た旧市街（フェネル地区方向）

ガラタ塔

ガラタ塔から見た新市街

３．スルタンアフメット地区（8月24日）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

言わずと知れたビザンティン建築の代表作。6世紀、それまでのバシリカ式の聖堂がニカの反乱で焼失した後、ユスティニアヌス1世の命によって現在のような壮大なドームを持つ大聖堂として再建された。

コンスタンティノープル総主教の座所、そして正教会の中心であり、キリスト教帝国であるビザンツ帝国の宗教の中枢として約900年続いた。

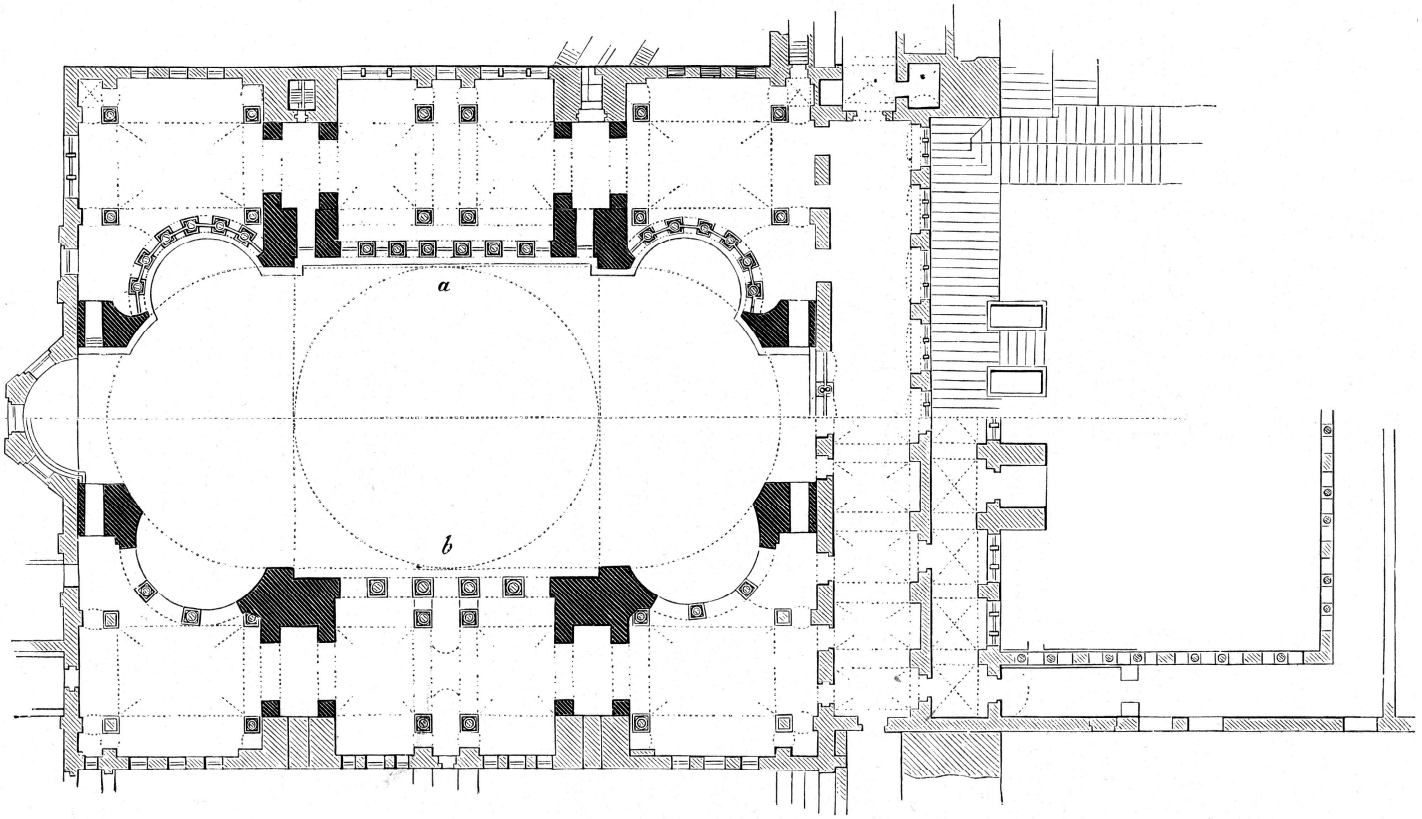
1453年のコンスタンティノープル陥落後モスクに変えられたが、現在は無宗教のアヤソフィア博物館となっている。

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

http://www.arkeo3d.com/byzantium1200/hagia.html

Byzantium 1200の復元画像は上記のリンクから

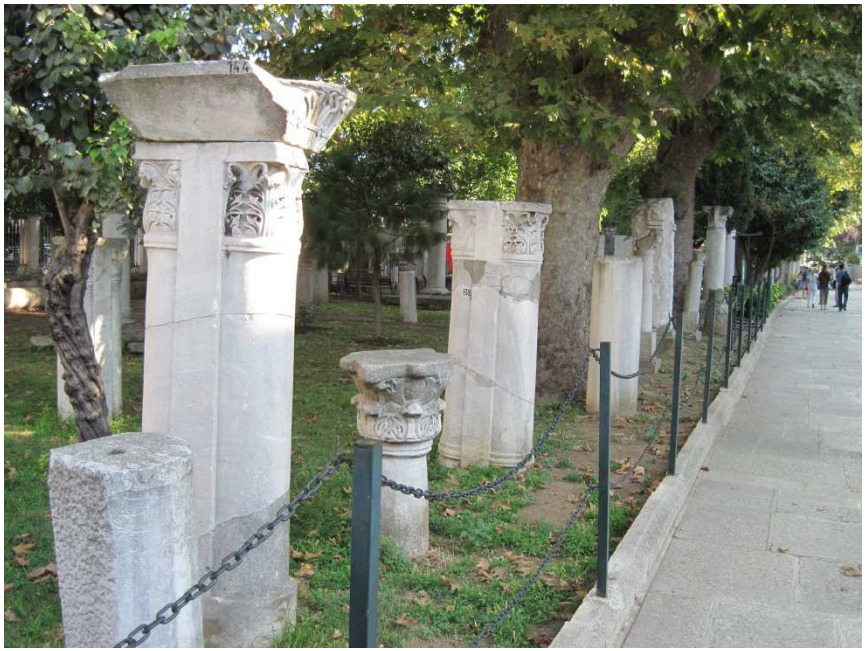
アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）



アヤソフィア平面図

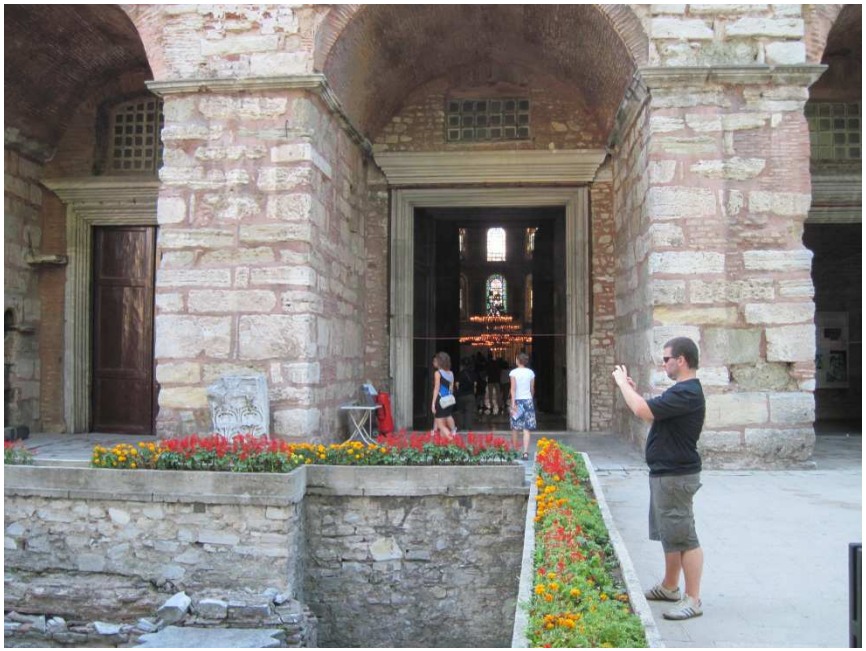
アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）



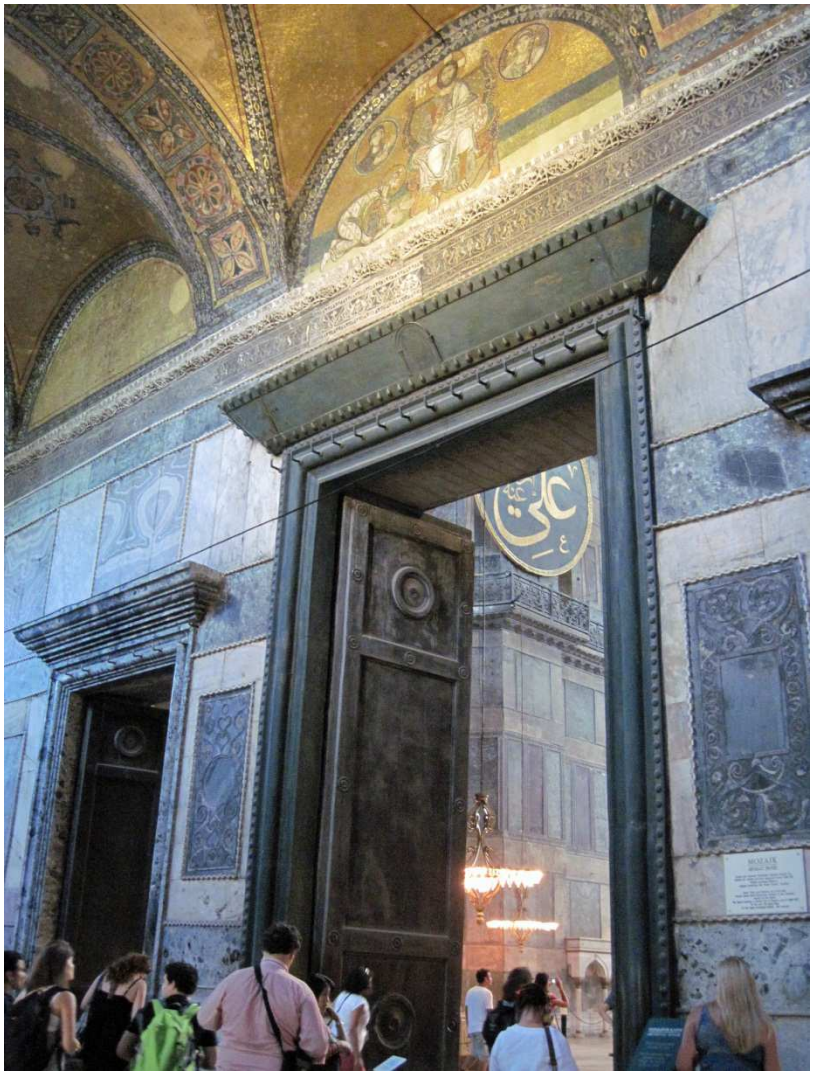
アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）



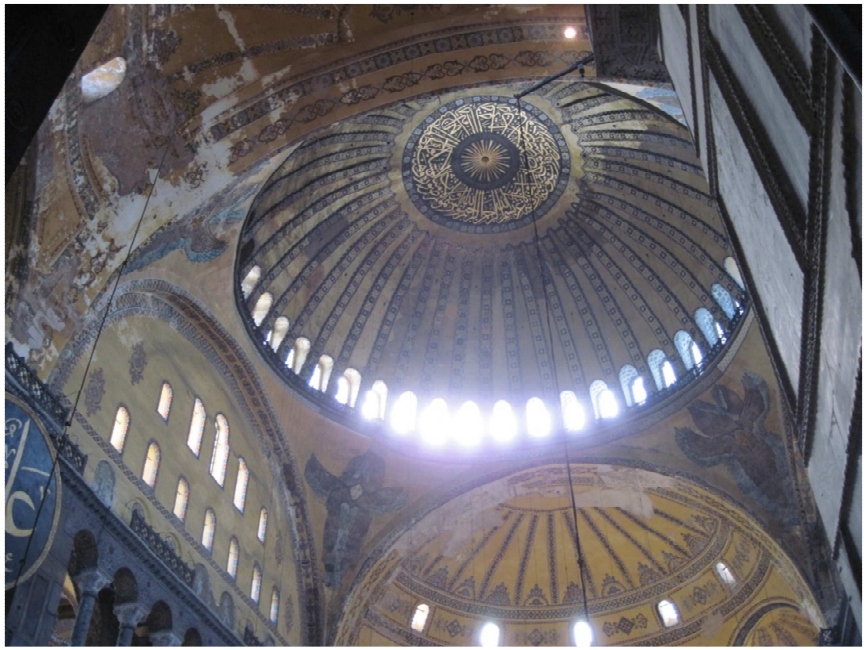
アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

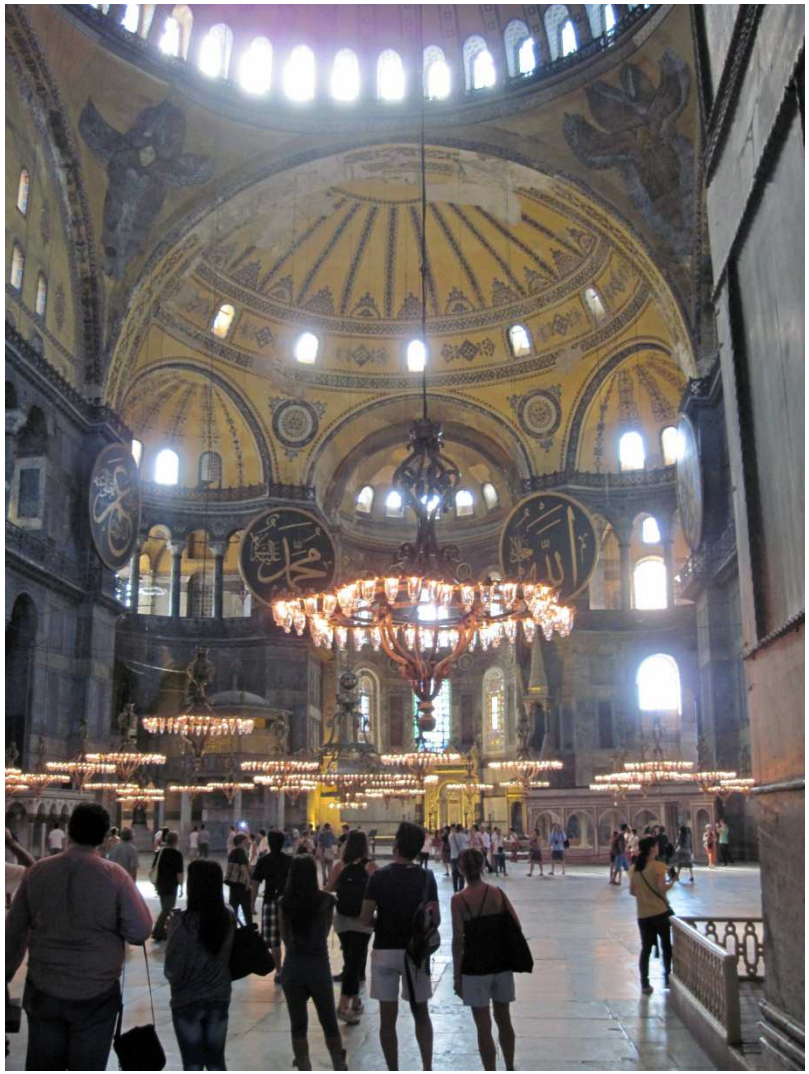


アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

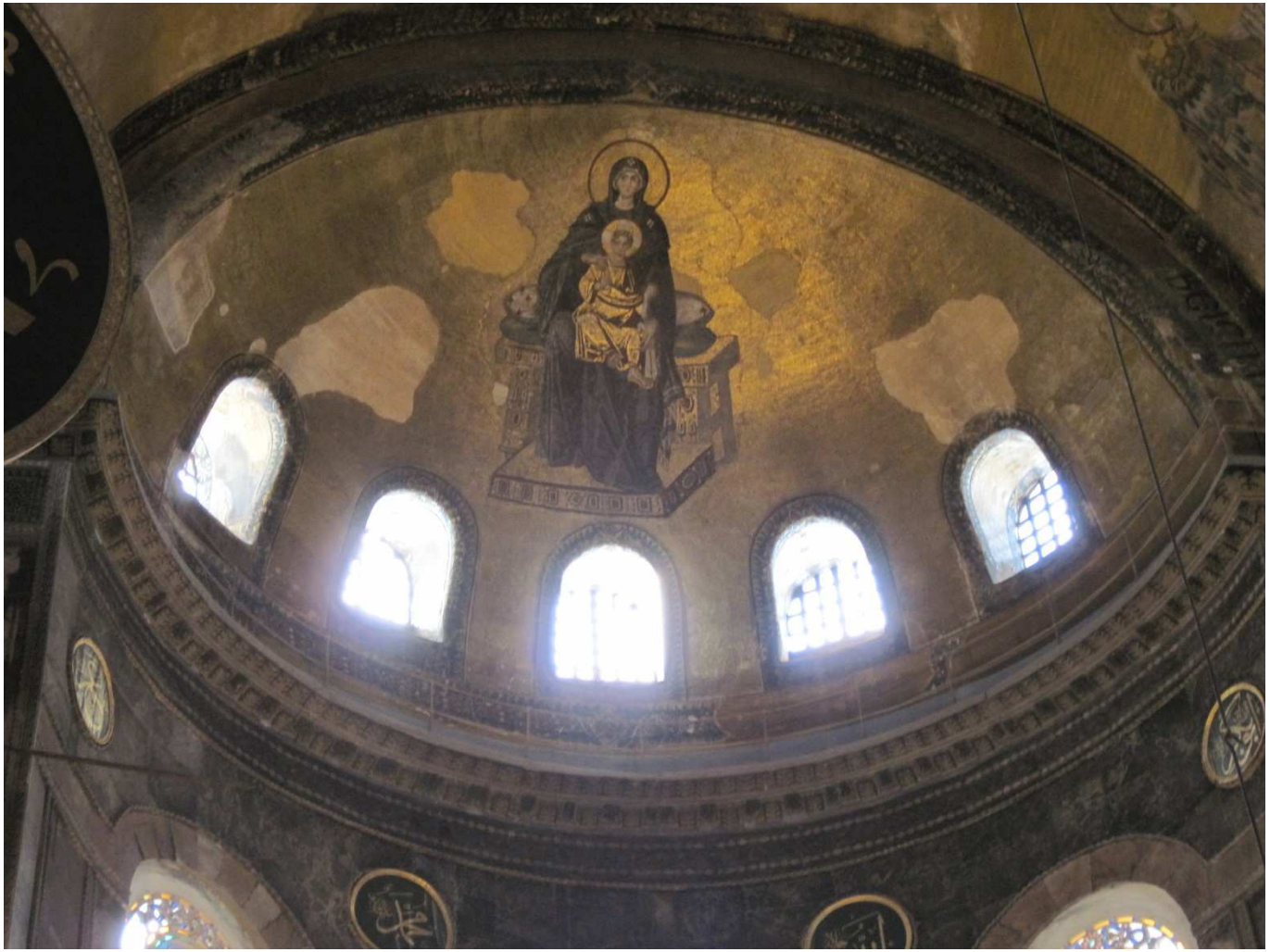


アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

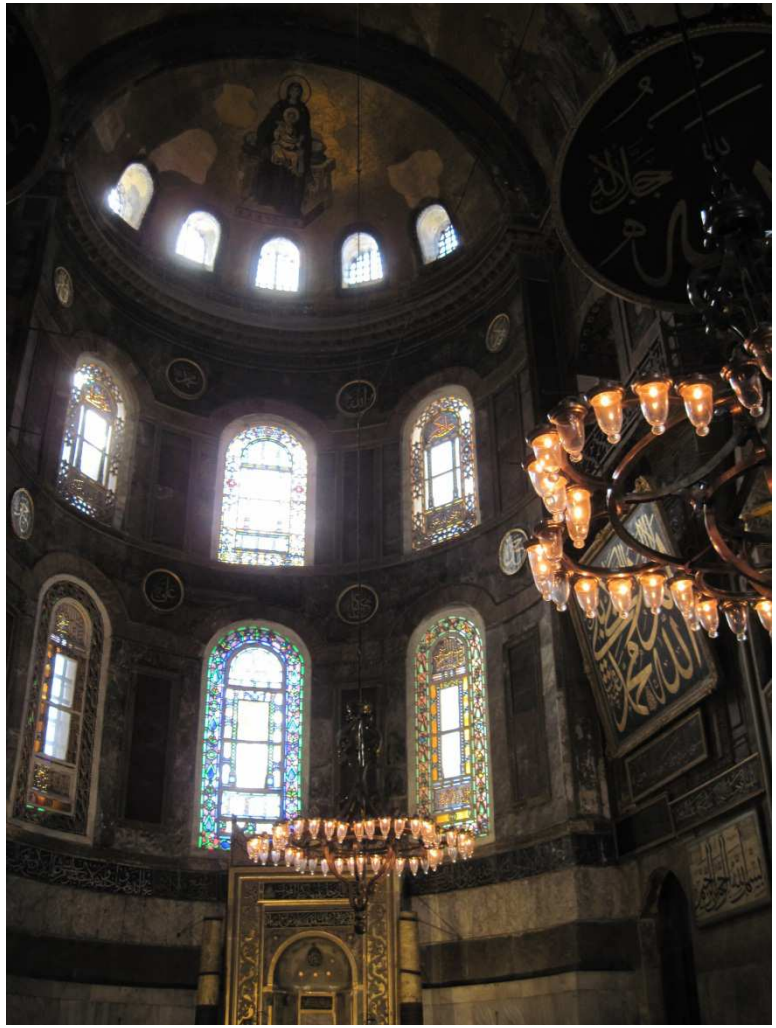


アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）



アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）



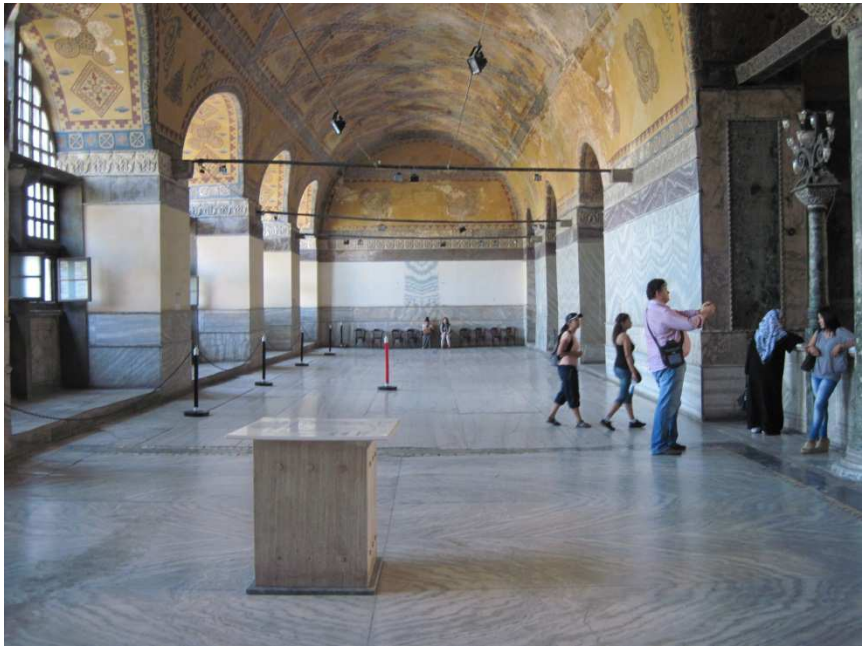
アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

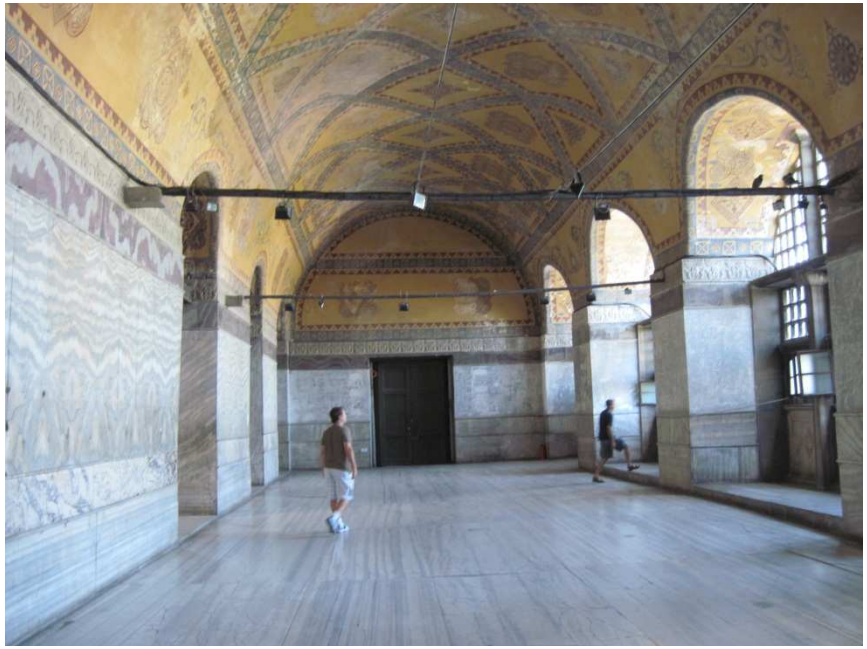
アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

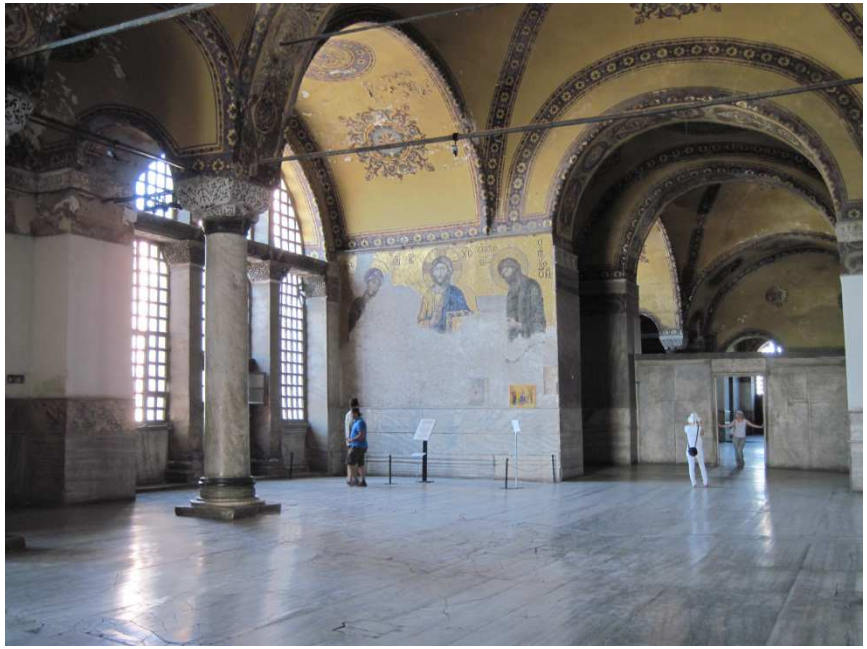
アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）





アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）



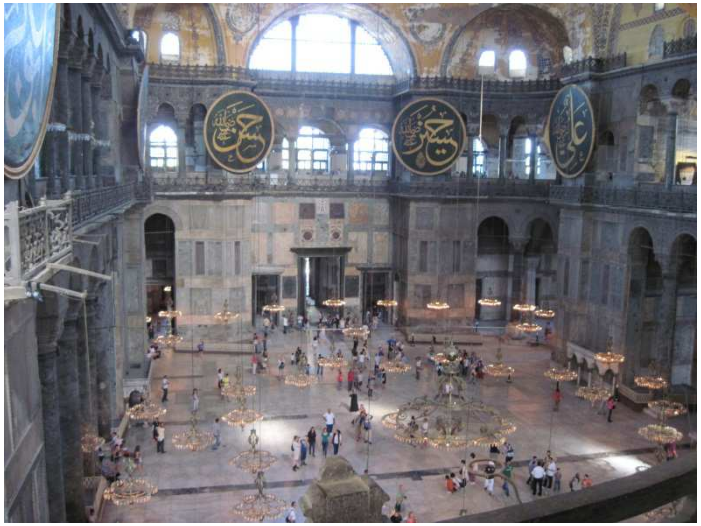
アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）



アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

アヤソフィア博物館
（旧ハギア・ソフィア大聖堂）

ミリオン

ビザンツ時代の道路元標。

ビザンツ時代はこのような建物に収められていた。

アト・メイダヌ
（競馬場[ヒッポドローム]跡）

203年、ビュザンティオン時代に皇帝セプティミス・セヴェルスによって建てたられた戦車競技場跡。コンスタンティノープル開都後に修復された。

大宮殿とは通路でつながっており、皇帝と市民の対話の場所、凱旋式、即位式などの儀礼会場としても使用された。

戦車競走は7世紀以降開催回数が激減したが、それでも1204年までは続けられていた。

1204年の第4回十字軍によるコンスタンティノープル占領時に4頭の馬の銅像はヴェネツィアに持ち去られた。競技場も荒廃し、1261年のニカイア帝国による帝都奪回後も甦ることはなかった。

現在は周回コースの中に建っていた建造物と、観客席の一部が残っているに過ぎない。

アト・メイダヌ
（競馬場[ヒッポドローム]跡）

http://www.arkeo3d.com/byzantium1200/hipodrom.html

Byzantium 1200の復元画像は上記のリンクから

アト・メイダヌ
（競馬場[ヒッポドローム]跡）

テオドシウスのオベリスク
（元々はトトメス3世のオベリスク）

アト・メイダヌ
（競馬場[ヒッポドローム]跡）

アト・メイダヌ
（競馬場[ヒッポドローム]跡）

蛇の柱（元はデルフィにあったペルシャ戦争戦勝記念）

アト・メイダヌ
（競馬場[ヒッポドローム]跡）

コンスタンティノス7世のオベリスク
（元は金の銅板が張られていた）

アト・メイダヌ
（競馬場[ヒッポドローム]跡）

観客席の跡

モザイク博物館
（大宮殿跡）

ビザンツ時代の大宮殿の一角にあった、5-6世紀にブーコレオン港と大宮殿を結ぶ記念門に付属する柱廊の床に描かれていたとされるモザイクを展示している。これらのモザイク画が発見されたのは1952-1954年の発掘によるが、モザイクが作成された正確な年代や目的等は未だに分かっていない。

博物館はアラスタ・バザールの片隅にひっそり佇んでおり、訪れる人もさほど多くないようだ。

モザイク博物館
（大宮殿跡）

モザイク博物館
（大宮殿跡）

モザイク博物館
（大宮殿跡）

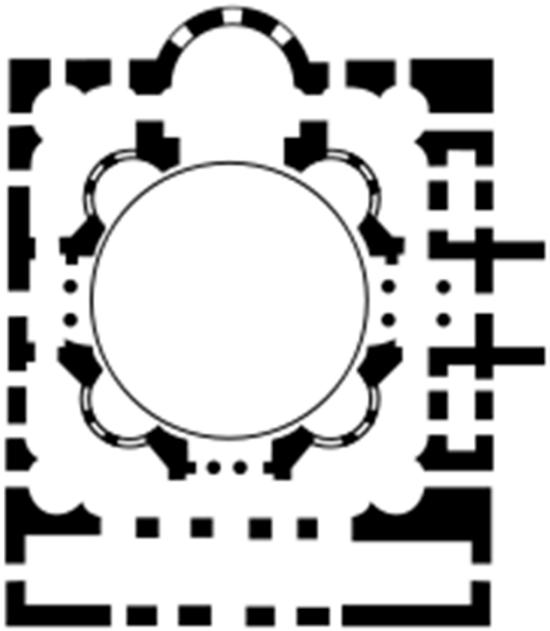
キュチュック・アヤソフィア・ジャミィ
（旧聖セルギオス・バッコス教会）

皇帝即位以前にユスティニアヌスの居所があった場所。ユスティニアヌスが即位後に教会と修道院を建設した。聖セルギオス、聖バッコスは3世紀にシリアで殉教した聖人。

この教会はローマ教皇がコンスタンティノープルへ来た時の居所として使用されたとも言われている。

オスマン帝国時代の1506年から1512年の間にモスクに改装され、第1次世界大戦の時は難民収容所としても使用されていた。

「キュチュック・アヤソフィア」とは「小さいアヤソフィア」という意味。



平面図(Wikipediaより)

キュチュック・アヤソフィア・ジャミィ
（旧聖セルギオス・バッコス教会）

キュチュック・アヤソフィア・ジャミィ
（旧聖セルギオス・バッコス教会）

ブーコレオン宮殿跡

大宮殿の一角にあった、マルマラ海に面した宮殿。

現在は荒れるに任せた状態である。

http://www.arkeo3d.com/byzantium1200/boucoleon.html

Byzantium 1200 の復元図は上記のリンクから

ブーコレオン宮殿跡

ブーコレオン宮殿跡

ブーコレオン宮殿跡

地下宮殿（イェレバタン・サライ）

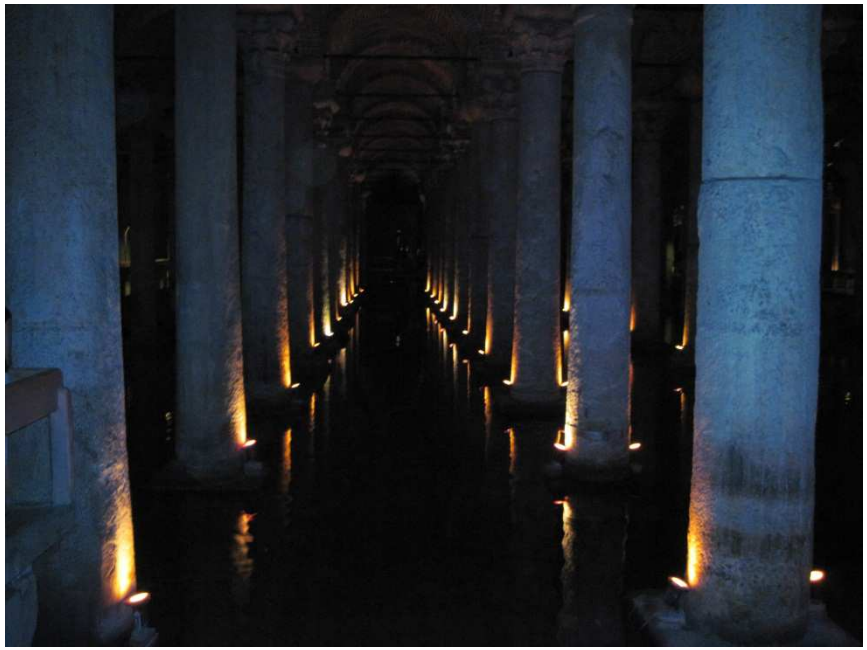
6世紀ユスティニアヌス1世によって整備された地下貯水池。78,000㎥の貯水量があったとされ、郊外の森からヴァレンス水道橋を通った水がここに貯えられていた。

柱は古代の建造物からの転用が多く、中でも逆さまに置かれたメドゥーサの像が付いた柱は有名である。観光名所になっており、中にはカフェなども営業している。

ビザンツ時代は地上にも建造物があったが、現在では失われている。

Byzantium 1200 の復元図

地下宮殿（イェレバタン・サライ）



地下宮殿（イェレバタン・サライ）

イスタンブール考古学博物館

1869年にオスマン帝国の帝国博物館として設立されたのが始まり。当初はアギア・イリニ聖堂に置かれていたが、手狭になったため現在タイル博物館として使用されている建物に移転し、さらに1891年に新古典様式の本館が完成した。

トロイなどの古代遺跡の発掘品、有名な「アレクサンドロスの石棺」をはじめとする古代ギリシャ、ヘレニズム時代の展示物が有名だが、ローマ・ビザンツ時代の遺物も多く、付属のタイル博物館、古代オリエント博物館を含めると、じっくり見るには丸一日はかかりそうな規模を持っている。

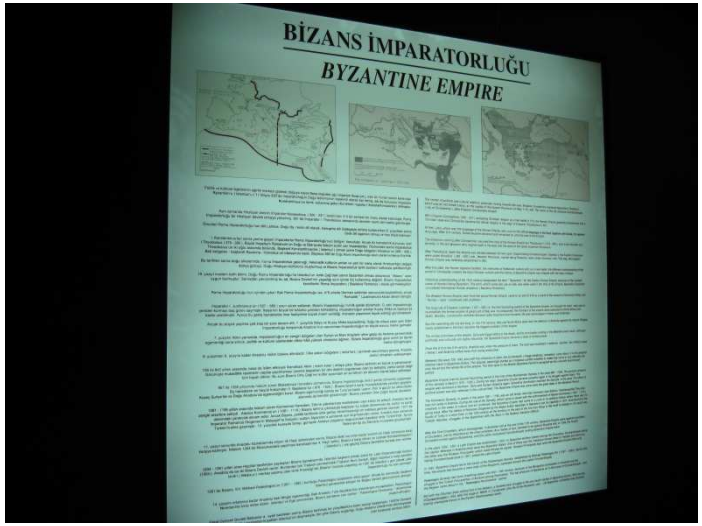
ビザンツ皇帝の石棺や一部の古代ギリシャ時代の彫像などは前庭に雨ざらしにされている。

イスタンブール考古学博物館

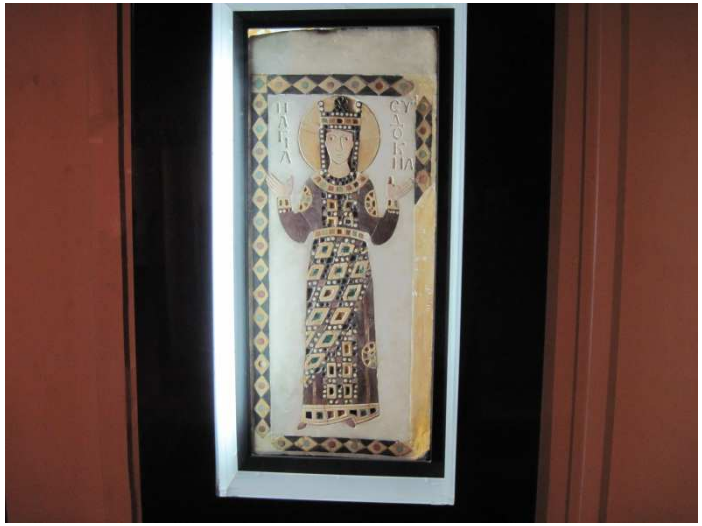
イスタンブール考古学博物館

イスタンブール考古学博物館

イスタンブール考古学博物館



イスタンブール考古学博物館



イスタンブール考古学博物館

イスタンブール考古学博物館

イスタンブール考古学博物館

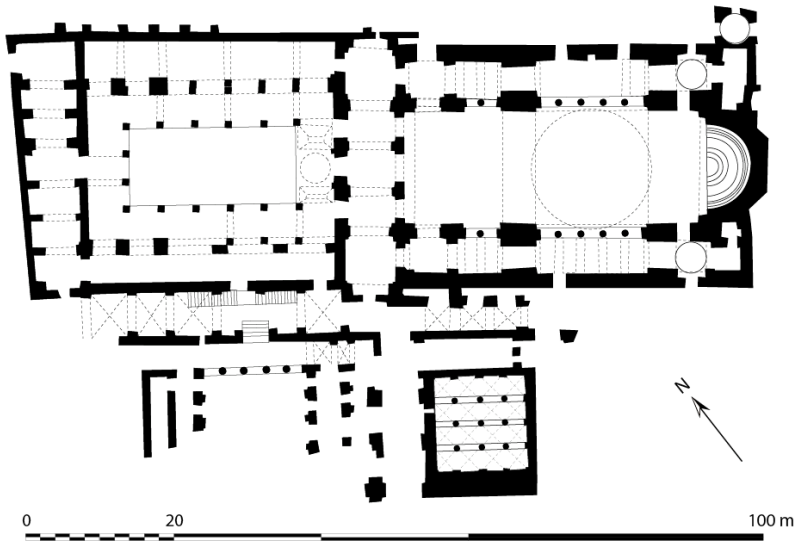
イスタンブール考古学博物館

アヤイリニ（ハギア・イリニ聖堂）

コンスタンティヌスによる遷都以前からキリスト教の聖堂があったと言われている。イリニは「平和」の意。360年にハギア・ソフィア大聖堂（初代）が完成するまではここが主教座であった。

532年のニカの乱で焼失し、ユスティニアヌスによって再建され、740年の地震で損傷したがコンスタンティノス5世によって修復された。内部の十字架はイコノクラスム時代のもの。

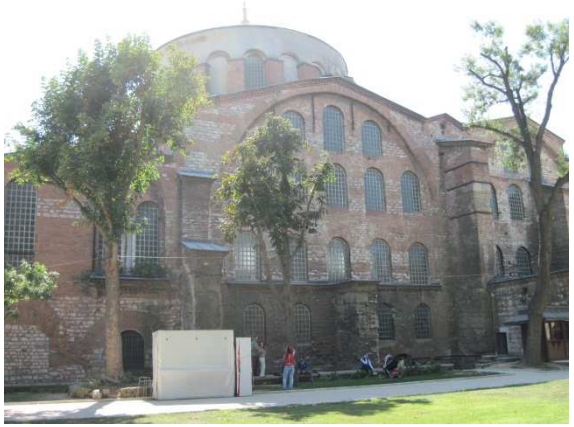
オスマン帝国によるコンスタンティノープル陥落後もモスクに転用されず、トプカプ宮殿の倉庫や帝国博物館（現在のイスタンブール考古学博物館）として使用された。

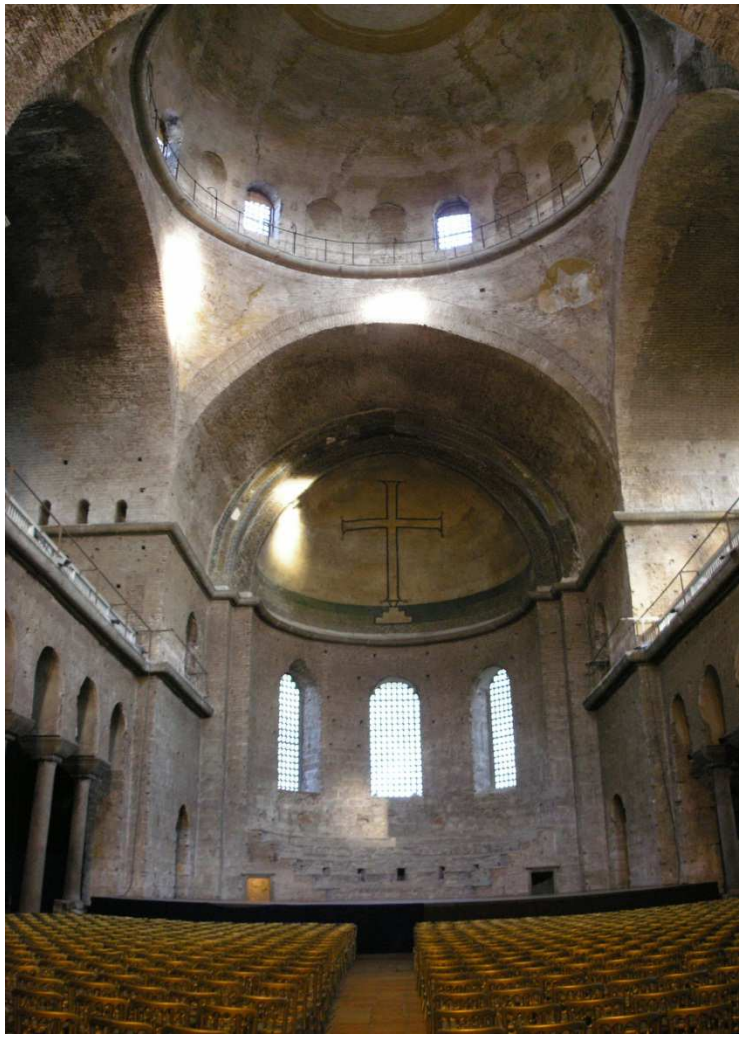


平面図(Wikipediaより)

アヤイリニ

アヤイリニ





内部(Wikipediaより)

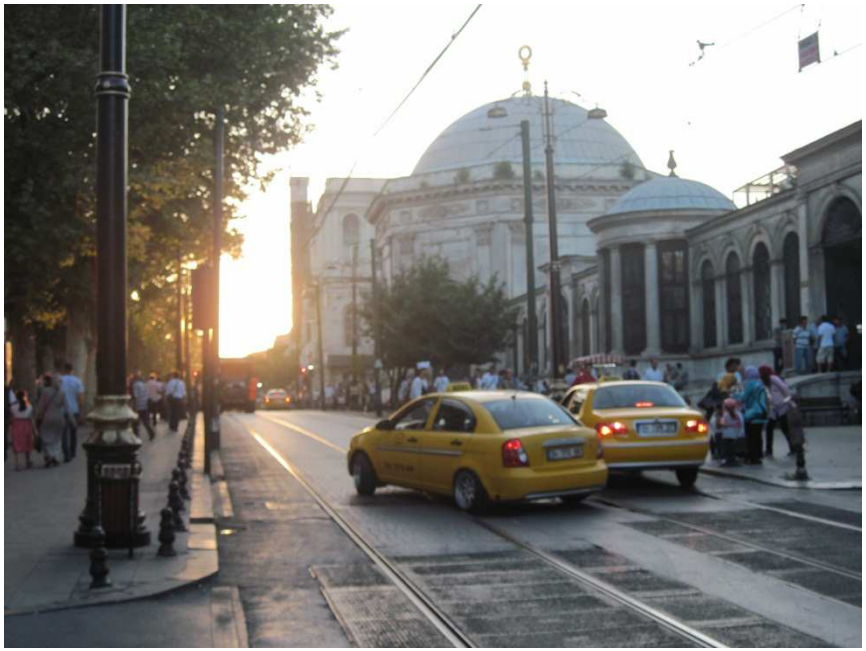
チェンベルリタシュ
（コンスタンティヌスの円柱）

コンスタンティヌス1世のフォルム跡に残る唯一の遺構。マヌエル1世の時代に強風で倒壊するまでは円柱の上にはコンスタンティヌス1世の像が立っていた。倒壊後は十字架が載せられた。

「チェンベルリタシュ」はトルコ語で「焼けた柱」の意。

現在の円柱はイスタンブール市民の待ち合わせスポットとして使用されている。

チェンベルリタシュ
（コンスタンティヌスの円柱）



4.ブルケラナエとフェネル（8月25日）

テオドシウスの城壁

テオドシウス2世の治世の413年、それまでのコンスタンティヌス帝時代の城壁に代わって帝都の西の陸地側に作られ、439年に金角湾とマルマラ海の沿岸部にまで延長された。

447年の大地震で損害を受けたが、急ピッチで再建されるとともに城壁を二重にし、さらに外側に濠を掘って強化した。

難攻不落を誇り、第4回十字軍もオスマン軍も正攻法では突破できなかった。

ビザンツ帝国が1000年もの長きにわたって存続出来た要因の一つである。

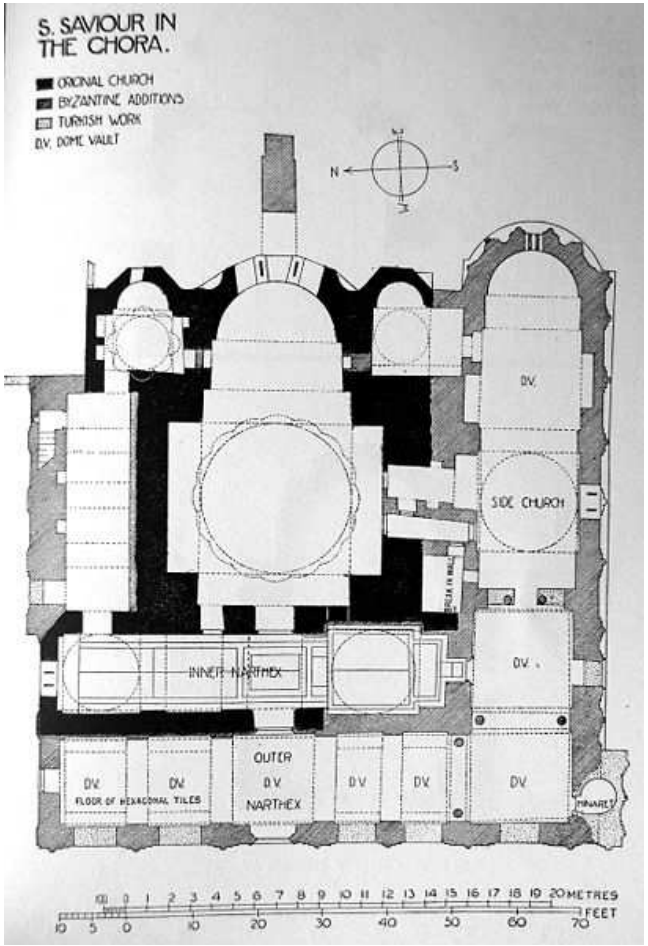
現在では修復が進んでいる場所と、崩壊しつつある場所がある。

テオドシウスの城壁

カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）

当初の創建は6-7世紀だが、現在の建物をは11-12世紀のもので、14世紀の宰相テオドロス・メトキテスによって増築がなされ、モザイクとフレスコ画が描かれた。この時の絵画の数々は「パレオロゴス朝ルネサンス」を代表する傑作の数々である。

帝都陥落後はモスクに転用されたが、現在は博物館として公開されている。



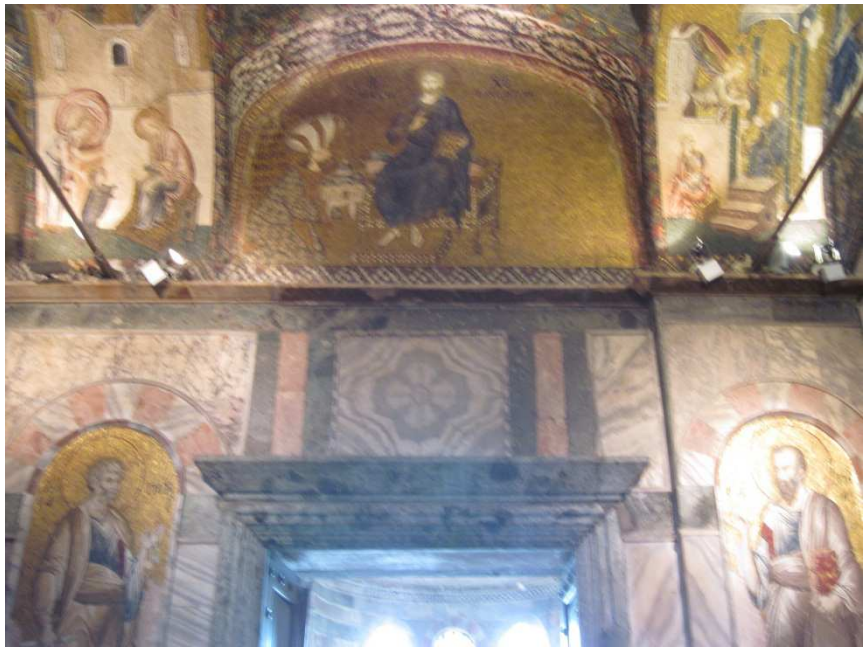
平面図(Wikipediaより)

カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）

カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）

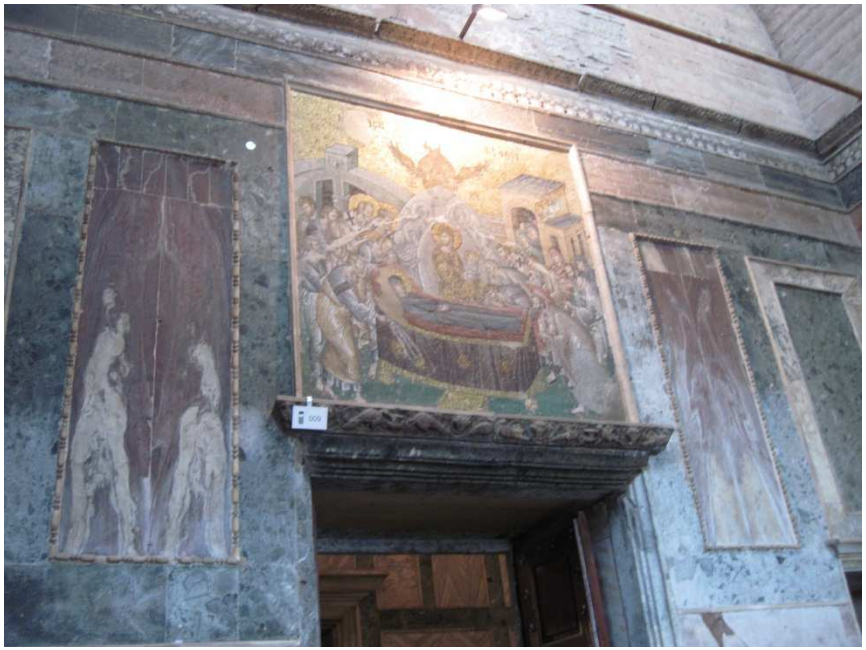
カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）

カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）



カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）

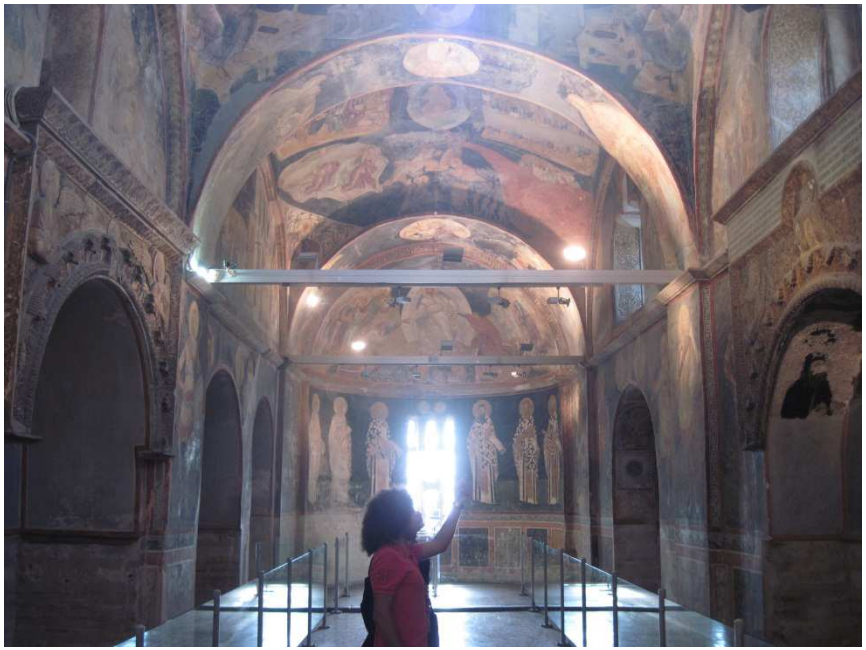
カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）



カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）

カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）

カーリエ博物館
（旧コーラ修道院）



テクフール・サライ
（コンスタンティノス・ポルフュロゲネトスの宮殿）

イスタンブールに現存する数少ないビザンツ時代の世俗建築の建造物。

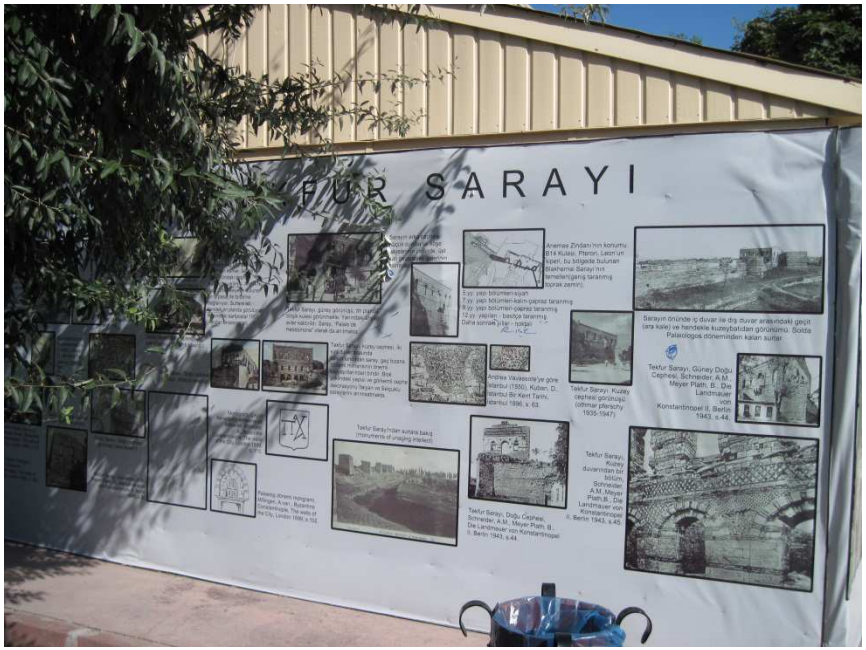
その名前からかつては10世紀の皇帝コンスタンティノス7世ポルフュロゲネトス（”ポルフュロゲネトス”は「緋色の産室生まれ」の意味で皇帝の嫡出子を示す）によって建てられたとされていたが、現在では帝国末期・パレオロゴス朝時代の建造物であると判明している。この「コンスタンティノス・ポルフュロゲネトス」はパレオロゴス朝初代皇帝ミカエル8世の息子コンスタンティノスではないかという説もある。

かつては荒廃していたが、現在は周囲に公園が整備され、修復も進められている。

Byzantium 1200 の復元画像

テクフール・サライ
（コンスタンティノス・ポルフュロゲネトスの宮殿）

テクフール・サライ
（コンスタンティノス・ポルフュロゲネトスの宮殿）



フェティエ・ジャミィ
（旧テオトコス・パンマカリストス教会）

元の名は「いとも祝福された聖母」を意味する。12世紀にコムネノス朝によって創建された。ラテン帝国支配時に荒廃したが、13世紀末に将軍ミカエル・ドゥーカス・グラバス・タルカネイオテスとその妻マリアによって再興された。

帝都陥落後から1586年にオスマン朝に没収されてモスクに転用されるまではここに総主教座が置かれた。

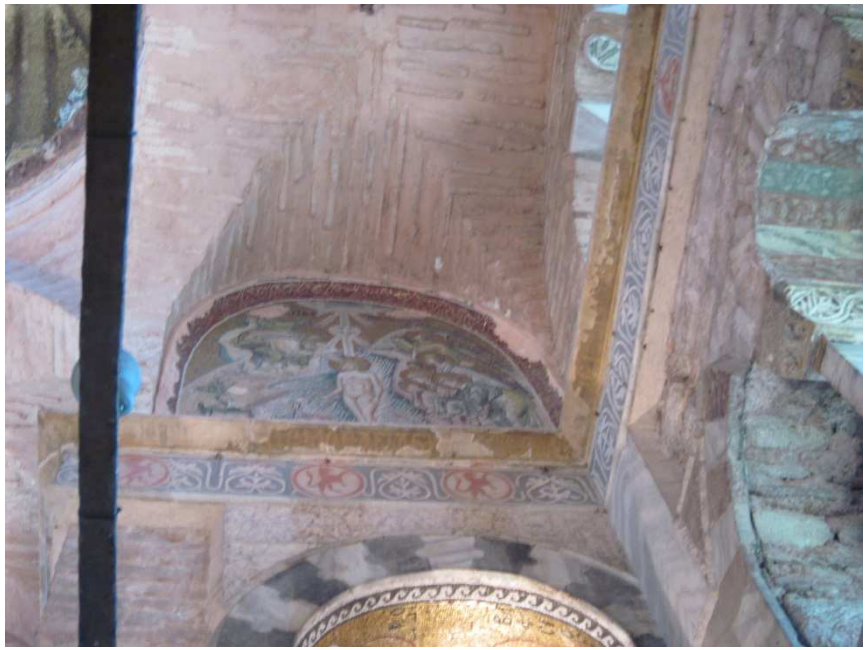
コーラ修道院同様、パレオロゴス朝時代のモザイク画、フレスコ画が残っており、一部が博物館として公開されている。

フェティエ・ジャミィ
（旧テオトコス・パンマカリストス教会）

フェティエ・ジャミィ
（旧テオトコス・パンマカリストス教会）

フェティエ・ジャミィ
（旧テオトコス・パンマカリストス教会）

フェティエ・ジャミィ
（旧テオトコス・パンマカリストス教会）



フェティエ・ジャミィ
（旧テオトコス・パンマカリストス教会）

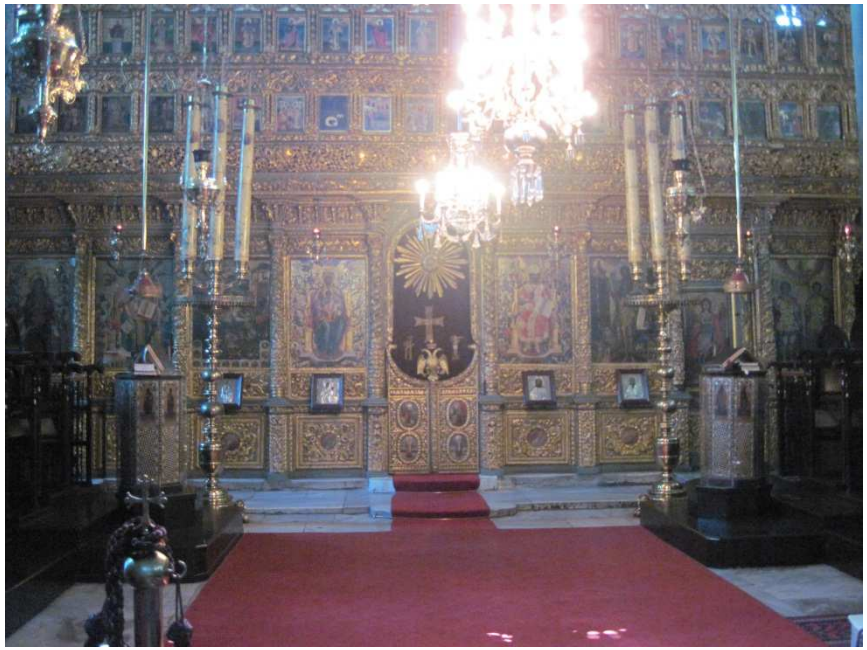
聖ゲオルギオス大聖堂
（コンスタンティノープル総主教座）

現在の「世界総主教、コンスタンティノープルと新ローマの大主教」の座所。フェネル地区の金角湾沿いにある。

コンスタンティノープル総主教座は現在でも正教会では第一位の格式を持つが、教会はひっそりとしている。また、19世紀の建造物なので、伝統的なビザンツ建築の様式とは異なった様式で建造されている。

　この教会の周囲だけはキリスト教のイコンなどを扱う店舗が並び、ギリシャ語も目にすることが出来る。

聖ゲオルギオス大聖堂
（コンスタンティノープル総主教座）



聖ゲオルギオス大聖堂
（コンスタンティノープル総主教座）

５.ヴァレンス帝の水道橋とその周辺（8月25日）

聖ポリュエウクトス教会？
（イスタンブール市庁舎近くの遺跡）

西ローマ皇帝ヴァレンテニアヌス3世の孫娘ユリアナ＝アナキアによって6世紀前半に建てられたバシリカ式の教会だった。

現在は石材の一部はイスタンブール考古学博物館に展示されているほか、それと思われる遺構が残されている。ただし、遺構には何の表示も無い。

聖ポリュエウクトス教会？

（イスタンブール市庁舎近くの遺跡）

ヴァレンス帝の水道橋

コンスタンティヌス帝によって着工され、378年のヴァレンス帝時代に完成したローマ式の水道橋。

かつては郊外の「ベオグラードの森」から送られた水はこの水道橋を通って「地下宮殿」まで送られていた。

オスマン朝時代になっても使用されたが、現在では機能を停止し、元の長さ1キロメートルのうち800メートルが残存している。

ヴァレンス帝の水道橋

ヴァレンス帝の水道橋

ヴァレンス帝の水道橋

水道橋の北にある「ゼイレク貯水槽」と書かれた謎の遺構。
オスマン時代の物とは考えにくいので、ローマ・ビザンツ時代の遺構なのだろうか。

ゼイレク・ジャミィ
（旧パントクラトール修道院付属教会）

1120-36年に皇帝ヨハネス2世コムネノスとその皇后ヘレネによって建造された。パントクラトールは「全能」を意味する。

コムネノス朝、パレオロゴス朝の歴代皇帝や皇族の墓所としても使用され、マヌエル2世パレオロゴスが修道士として隠棲したのもこの修道院である。

ビザンツ時代は修道院の他に内科・眼科・外科などの病院、精神病院、養老院などの慈善施設を備え、傘下の修道院や地方の所領からの収入で運営されていた。

帝都陥落後は荒廃していたが、15世紀の末に教会部分のみがモスクに変えられ現存している。

現在は復元工事中。

Byzantium　1200の復元画像

ゼイレク・ジャミィ
（旧パントクラトール修道院付属教会）

ゼイレク・ジャミィ
（旧パントクラトール修道院付属教会）

前の庭にあるカフェは眺めが良い。ライスプディングも美味しかった。

乙女の石
（マルキアヌスの円柱）

5世紀中ごろの皇帝マルキアヌスによって建てられたとされる円柱。台座部分に女性が描かれているため、トルコ語では「乙女の石」と呼ばれている。

比較的良い状態で残っており、台座の碑文もはっきり残っている。

乙女の柱
（マルキアヌスの円柱）

カレンデルハネ・ジャミィ
（旧クリスト・アカタレプトス修道院付属教会）

旧テオトコス・キュリオティッサ教会説もある。

http://d.hatena.ne.jp/thutmes/20090310/p2

6世紀に、5世紀初めの公衆浴場の跡地に建てられたのが最初であるが、現在の建物は12世紀のもの。ギリシア十字の上にドームを持つ、中期以降のビザンティン建築らしい構造。

すぐ近くにはヴァレンス水道橋の終端部、さらにその先にはスレイマニェ・ジャミィがある。

カレンデルハネ・ジャミィ
（旧クリスト・アカタレプトス修道院付属教会）

ボドルム・ジャミィ
（旧ミュレライオン修道院付属教会）

皇帝ロマノス1世レカペノスが自邸を女子修道院にした。それまで歴代皇帝は聖諸使徒聖堂を墓所としたが、ロマノスはここを自らの墓所と定めており、10世紀以降のビザンツにおける家門意識の台頭を現しているとも言われている。

構造に特徴があり、聖堂の下に構造物があるが、ここは現在は地下商店街と化している。

Byzantium 1200の復元画像

ボドルム・ジャミィ
（旧ミュレライオン修道院付属教会）

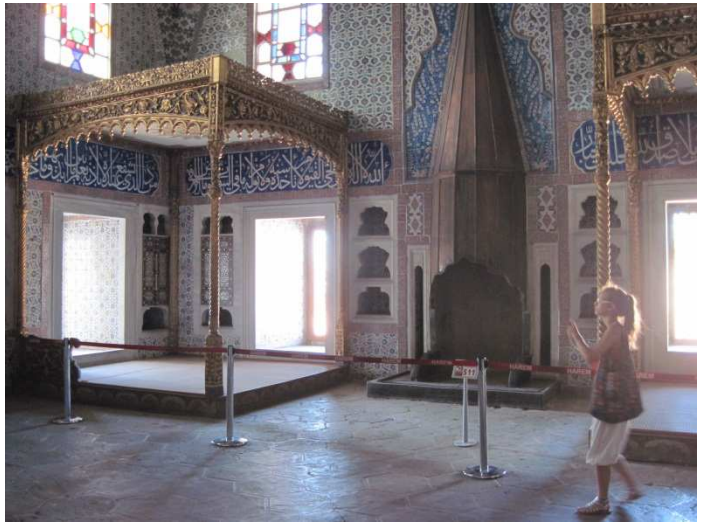
ボドルム・ジャミィ
（旧ミュレライオン修道院付属教会）

ゴート人の円柱

トプカプ宮殿の北、ギュルハネ公園内に建つ、古代の円柱。古代のビュザンティオン時代、ここは市のアクロポリスであった。

台座にローマ皇帝がゴート族を打ち破ったことを記念するラテン語碑文があったことから「ゴート人の円柱」と呼ばれているが、正確な由来は定かではない。

番外編①：オスマン朝の史跡編



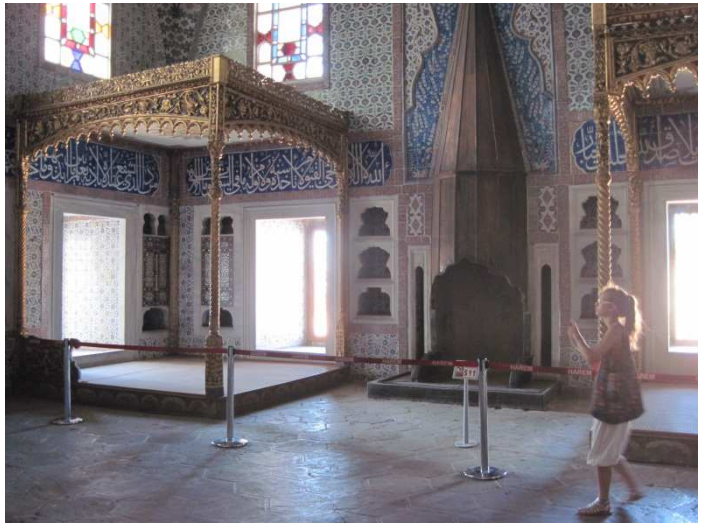
トプカプ宮殿

オスマン帝国歴代スルタンの居所（後期にはドルマバフチェ宮殿に移っている）。

ビザンツ時代にはマンガナ地区と呼ばれ、宮殿や教会が立ち並んでいた。さらにその前のビュザンティオン時代の市域でもある。

現在は博物館になっており、有名なハレムの他、歴代スルタンの収集した陶磁器、武器、宝石類などのコレクションが公開されている。また、ここからの海側の眺めは抜群である。

トプカプ宮殿



トプカプ宮殿

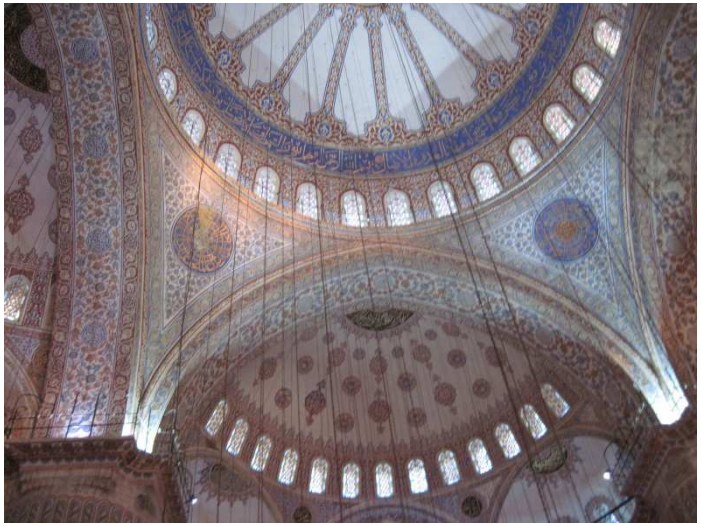
スルタン・アフメット・ジャミィ（ブルーモスク）

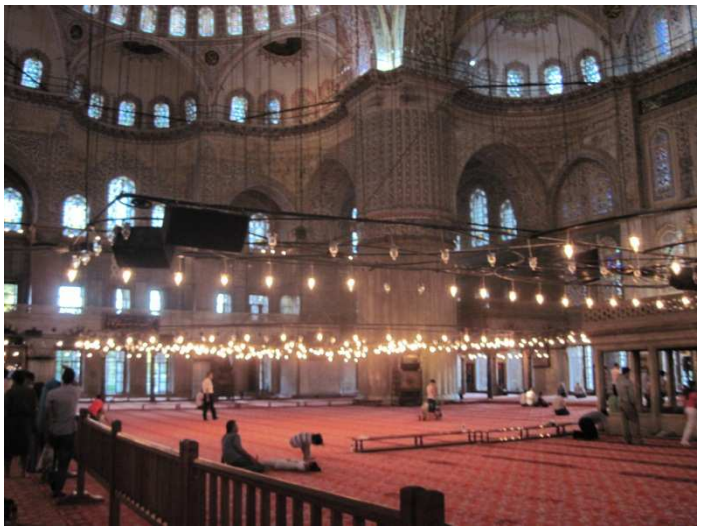
17世紀初頭のスルタン、アフメット（アフメト）１世の命によって、ビザンツ時代の大宮殿の跡に建設されたモスク。

内部の青いタイルの装飾から、「ブルーモスク」と呼ばれている。

オスマン建築の代表格であり、アヤソフィア、トプカプ宮殿などと共にイスタンブールを象徴する建造物の一つ。

スルタン・アフメット・ジャミィ





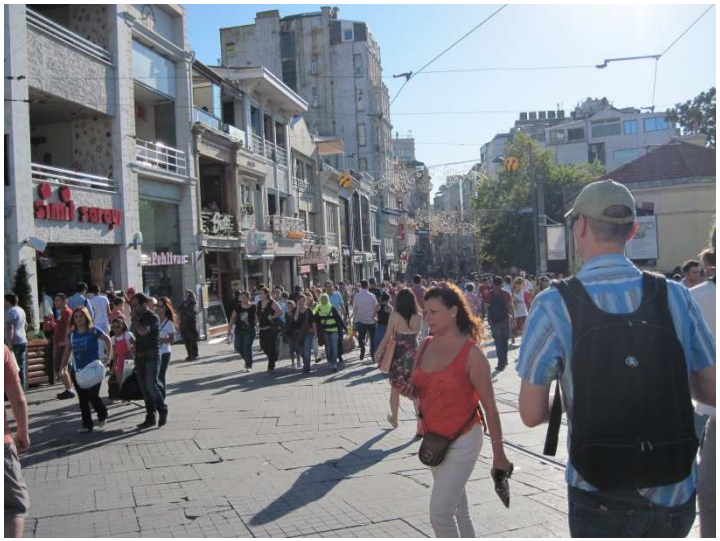
スレイマニェ・ジャミィ

1557年、オスマン帝国最盛期のスルタン・スレイマン1世の命によって建てられた、オスマン建築史上随一のモスク。設計はトルコ史上最高の建築家と呼ばれるミマール・スィナン。

金角湾を見渡す丘の上に建ち、ひときわ目立つモスクである。

スレイマニェ・ジャミィ

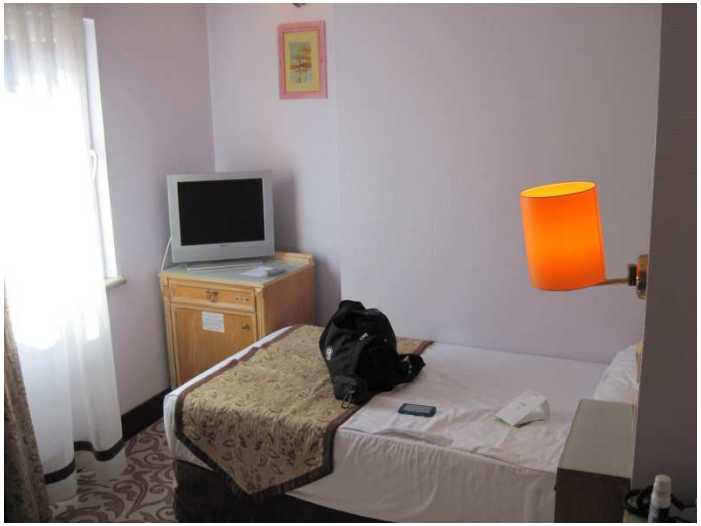
番外編②：その他編



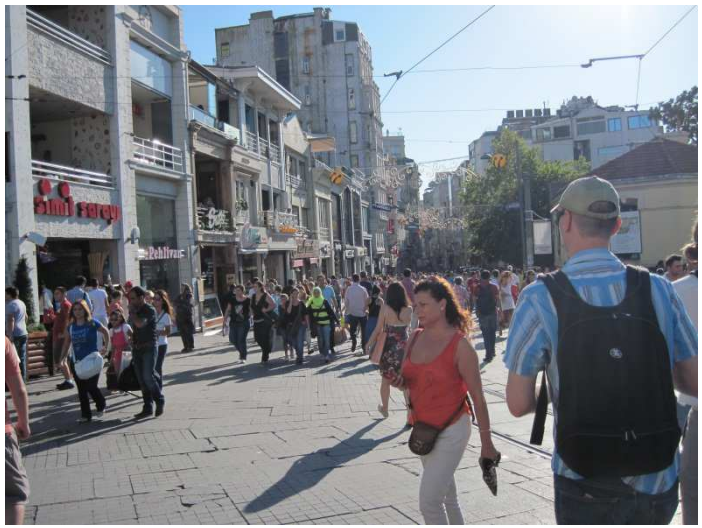
乗り物編

食べ物編

ホテル編



その他市内観光編



その他市内観光編

猫編